

夏季合宿のお知らせ

今年も以下のような内容で夏季合宿を行います。会場申し込みや準備のため参加予定概数を早く把握しなければなりませんので、家族同伴も可です。予定の立つ方はぜひお申込みください。涼しい高原で蝶と戯れ楽しく語り合いませんか？

多数のご参加を宜しくお願い申し上げます。

日時：8月1日（土）2日（日）

場所：山梨県北杜市清里（小平市八ヶ岳山荘）

土曜日の夕刻5時に山荘へ集合、翌日朝解散

費用：足代は別途で¥4000 前後

配車、現地地図等他の詳細は別途7月下旬ころ（ML, ミニたまにて）

仮締切りは6月28日（日）で麻生 b.major@cello.ocn.ne.jp または 090-6106-0975 まで

最終確認は7月24日です。それ以降のキャンセルはできませんので宜しくご承知おきください。

* 新入会員（宜しくお願ひいたします）

村上勝 〒165-0032 中野区鷺宮 6-25-9 T.F: 03-3825-8474

* 7月以降の例会予定（変更日有、ご注意ください）

7月28日（火）注、第四火曜日 8月18日（火） 9月15日（火）

10月20日（火） 11月10日（火）注、第二火曜日 12月15日（火）

* 新刊

飼育の実際 西岡信靖 自刊 ¥3000 06-6653-1407

今森光彦ネイチャーフォト、ギャラリー 今森光彦 偕生社 ¥1800 03-3260-3221

相模の蝶記録集 NO. 23 相模の蝶を語る会 ¥? 042-746-1619

新大山の蝶 松岡嘉之 自刊 ¥2000 0857-52-2526

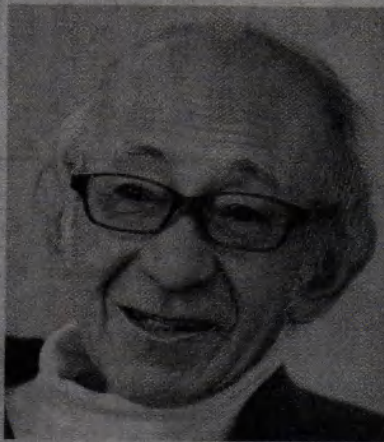
* 新聞紙上より

生物から学べる最も大切なことは「よみがえる力」と「しなやかさ」です。

生命は三十数億年前の地球に生まれた物質です。これが自身の複製を作る形で再生を繰り返して、環境に応じて柔軟に多様性を広げてきました。私たちが死んでも子孫が次世代を再生するように、「いのち」というものは一度に、バクテリアから昆虫、魚も途絶えたことがない。最初、鳥類、あらゆる生き物が一部では死に絶えることがあっても、再生を繰り返して

識者に聞く

岡田 節人^{と きん だ}氏 81 京都大名誉教授



07.1.14 読

しなやかに再生する命

た。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。

た。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。

た。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。しかし最近びっくりした。

それより、生物をよく観察してください。微生物、イモリ、昆虫、無心に生きながら、足りないものを補い、欠けたものを再生し、その生き様はまさしく柔軟です。私たちの皮膚や内臓組織も、毎日死んでいく細胞を補い、代謝を繰り返しながら生命を支えている、その柔軟さに目を向けてはどうですか。自然の仕組みの素晴らしさに感動すれば、それぞれの年代の肌、容姿があり、それをありがたく受け入れる姿勢になります。マニュアルや知識で

生物には人間のような知性はありませんが、健康に生を全うするための優れた五感を備えています。豊かに生きるためには、私たちが都市生活などで失ったこの五感を研ぎ澄まさなければなりません。

常に軌道修正しながら、止むことのないしなやかな生き方、易经には「自强不息」という言葉があるようですが、大事なものはその本質です。私自身はもう「考え方」とか「言葉」は忘れようと思えます。

(聞き手・小出重幸)

菅野 徹

三色旗・トリコロール
といえは、元祖はフランス
国旗。日本では、今年、創
立150年を数えた慶応義
塾の三色旗が知られてい
よう。

先日、同好の野遊び仲間
とその塾内の野原で、足
に鮮やかなトリコロール
を装った小さなカマキリに
出あった。体長6センチに満
ちぬその名もコカマキリで、
前足の内側に、長さ8ミ
リ幅2ミリの小さな三色旗
が見えた。お膝元での出あ
いとなった。

本州以南、アジア各地に
いる普通のカマキリだ。着
かされて鎌を振り上げても
せぬば、3色を見せてくれ
ぬので、人目に付き難いの
だろう。案外、知られてい
ないが、筆者は、自然界随
一の文様だと信じている。
知る限り3色斑は、国内外
で、他にオカワコマドリ(本
欄2006年5月既報)の
喉にしか見当たらない。

時は秋、七草の一つナデ
シコ(カワラナデシコ)の、
野生らしいのが、近所にあ



尾花を背に咲くカワラナデシコ
(2008年10月22日、横浜で)

コカマキリ 足には三色旗

ed. 11.9 読売



コカマキリの雌。右前足の内側に、前から赤、白、黒の3色が並ぶ。(2008年11月2日、横浜で)

った。尾花の穂に混じって、
ただ1株、花を1輪つけて
いた。

全国に、かつて横浜の野
にも多く咲いていたが、野
外では、この半世紀で、ほ
とんど絶えた。今年、出あ
ったのは、ほぼ確実に野生
の生き残りのみだ。いま横
浜市内では、自生は、数株
であろう。

実は、カワラナデシコ
のものは、よく栽培されて
いて珍しくはない。動物園
でオオカミを見るのと、自
然の中でオオカミに会うの
とは、わけが違う。ナデ
シコとの貴重な出あいただ
た。

カワラナデシコは、ご存
知、大和撫子。古今集以
来、たおやかな日本女性の



黄葉の叢に付いたムカゴ
(2008年10月28日、横浜で)

代名詞となって久しいが、
少なくとも横浜の一部で、
絶滅を免れていたとは、う
れしい。

ところで、秋の山の幸に
ムカゴがある。ヤマノイモ
の蔓に生える大豆粒ほどの
一種の空中芋で、筆者は、
みつけ次第、もいで齧る。
山羊の味がする。研いだ米
に、初めから混ぜて、薄い
塩味に炊き上げたムカゴ飯
の野趣は、格別。ごくごく
まれに店頭にも現れるが、
だいたいは、野山で、小林
一茶も言っているように、
ほろほろとほれ落ちそう
なのを、わが手で採り集め
ねばならぬから、貴重な味
だ。

昔から食べられ、平家物
語にも平清盛の出生にから
んで出ているし、与謝蕪村
には、籠いっばい採れよう
れしいという、一句がある。

コカマキリを見た野遊び
の後、仲間と、塾内で集め
た椎の実と、ムカゴを煎っ
て味わい、去りゆく秋を惜
しんだ。

(生物エッセイスト) 写
真も。毎月第2日曜日に掲
載します)

四季 長谷川 權



東京・上野東照宮
ぼたん苑で

夢買ひに来る蝶もなし冬牡丹

蕪村

吉夢を強引に買い取るのが「夢買ふ人」。ある人が富士山の夢を見た。ところが、夢買いに奪われはしないかと夜も眠れない。そこで蕪村が贈った句。今は冬だから夢買いななど来ないよ。冬牡丹に蝶が来ないように。世に心配の種は尽きず。

2009. 1. 14

四季 長谷川 權



リュウキュウアサギ
マダラ(奄美大島で)

凍蝶も焚いてしまつたかも知れぬ

仙田洋子

落ち葉を焚きながら思ったのだ。その中に凍えた蝶がまぎれていたかもしれない。翅をたたみ、もはや飛ぶこともない。かといって命がないわけではない。魂だけが飛びたつてゆくのをじっと待っている、ひとひらの落ち葉のような冬の蝶。

2008. 12. 1

この季節、筆者の野遊び仲間、チョウもトンボも次々に姿を消してわびしい。そんな11月30日、アカタテハというチョウが、鉄パイプの上で、羽を6枚ほど、いっばいに広げて、日なたぼっこをしていた。鳥かかマキリから危うく逃れたのか、羽が痛々しく破れていた。チョウの中には、成虫で越冬するものが少なくない。ここ横浜でも、このチョウなど8種ほどが、チョウの姿のまま、北向きのひさしの下などで冬眠するといわれる。昼夜の温度差の少ない北向きを選ぶのは、生き抜くための知恵であろう。来春、この個体が飛べば、羽の破れようから、すぐ、それと、わかる。頑張ったね、とねぎらってやれる。

アカタテハは、アフリカ南部を除く、ほぼ世界中にいる。レッド・アドミラル(赤い提督)という英名も広く知られている。羽が元のままならば、正装した海軍将官の辺りを払うような雰囲気、なきにしもあらず、だ。

わが百葉箱の12月7日朝は、2・8度に下がった。3月9日の2・2度以来、初めての2度台の低温に、サトイモの葉が霜傷みした。横浜の秋は、いわば、この日、終わった!

(生物エッセイスト 写真も。毎月第2日曜日に掲載します)

アカタテハ (2008年11月30日)



まぢかど
四季 権